

EEM380 建築史

4年 1,2クォーター

担当教員 高嶋 猛

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 未定

授業概要

建築がそこに「建つ」には必然的な理由がある。また、建築が建てられる時は、風土性や人間の考え方が大きく関係する。この講義では歴史の流れに沿いながら、西洋建築および日本建築の流れを概説する。社会の変化や要求と、建築の空間構成・技術の発展をとおして、その歴史的特質を追求する。建築に現れる意匠・様式・機能・技術と社会との関連を捉えながら、それぞれの時代に人間がどのように建築してきたかを考える。

現在のめまぐるしい社会の変化と技術の進歩は、時としてもものづくりの基本的考え方を忘れがちである。国内外の建築の成り立ちや歴史を追いながら理解することで、建築という風土に根ざしたものづくりを実践する考え方と方法を学ぶ。一方「建築とは芸術である」という命題に対しての史料を提供し、考えることも授業の大きな課題である。

到達目標

西洋建築および日本建築の変遷とその歴史的特質に関する基礎的知識を習得し、さらに建築空間と人間の関わり方を歴史と文化（芸術）・技術の側面から捉えることで、人間のための建築空間構築について考察できる能力を養う。

先修科目

特になし

教科書・参考資料等

- 教科書 (1) 日本建築学会編「西洋建築史図集」三訂版 彰国社、1983年
(2) 日本建築学会編「日本建築史図集」新訂第三版 彰国社、2011年
- 参考書 (1) 森田慶一著「西洋建築史概説」彰国社、1982年
(2) 太田博太郎著「日本建築史序説」彰国社、1947年

授業の方法

この授業は講義形式で行う。講義は基本的に教科書に即して進めるが、近年の発見や特に重要と考えられる問題については、資料を配付する。また理解を深めるため、適宜映像を使用する。

授業の理解度を確認するために、授業中に小テストを複数回実施する。

成績評価

成績はテストで評価する。

成績

- 70% 講義期間中に実施する小テスト
30% 期末テスト

授業スケジュール

第1回：建築の歴史を学ぶとはどういうことか

建築は工学的な技術無しでは完成しないが、その行為は人間の生活や活動に非常に関係の深い人間的な分野であり、それ故に様々な文化を総合するものであることを学ぶ。

第2回：日本建築史(1) 古代の神社と寺院

古代の建築遺構は少ないが、日本人の建築の考え方の原点がよく現れている。発掘等の資料とともに、建築の基本的形態も併せて学習する。

第3回：日本建築史(2) 奈良時代の寺院と都市

平城京遷都で建設された建築や都市について、古代からの伽藍や建築の変化について意匠構造の観点から学ぶ。

第4回：日本建築史(3) 平安時代の神社と寺院

この時代にもたらされた密教系や浄土教関係の寺院の特徴を学び、合わせて現在見られる大部分の本殿形式が形成された神社建築について理解する。

第5回：日本建築史(4) 中世の神社と寺院

中世に移入された大仏様と禅宗様の寺院建築や地方性豊かな神社建築の特徴について学び、構造的な発展についても理解を深める。

第6回：日本建築史(5) 中世の住宅と城郭・書院造と数寄屋

住宅に遺構が見られる中世の特徴、および現在の住宅の基本ともなる書院造と数寄屋について特徴と考え方を理解し、城郭建築についても学ぶ。

第7回：日本建築史(6) 近世の神社と寺院

東照宮に代表される近世の社寺建築の理解を深め、安定した時代での人々の建築に対する考え方を理解し、技術的展開についても学ぶ。

第8回：日本建築史(7) 民家と集落

近世には、民家や集落の遺構が多く残り、現代へも引き継がれている。形態も様々で、それらの特徴を地域性・風土性の観点からも理解する。

第9回：西洋建築史(1) 古代エジプトと古代ギリシアの建築

古代エジプトから古代ギリシアの建築を組積造の観点から西洋建築の特質を学び、ギリシア建築では主に神殿建築を通して造形の基本的原理を学ぶ。

第10回：西洋建築史(2) 古代ローマの建築と初期キリスト教建築

古代ローマ建築の造形的性格や構造技法を学び、この時代に建てられた様々な施設について考える。また、初期キリスト教建築の造形について学ぶ。

第11回：西洋建築史(3) ロマネスク建築

精神的にキリスト教に統一されたヨーロッパ社会で、地方的に異なった様相をとって発展したロマネスク建築の新しい造形について学ぶ。

第12回：西洋建築史(4) ゴシック建築

教会の地位が高まるにつれ聖堂の規模も拡大する。平面も、高さも拡大していった聖堂の構造・細部、および地方的特徴を把握し、その造形的性格を考察する

第13回：西洋建築史(5) イタリアのルネサンス建築

古典古代の再生による新しい未来の創造を目指したルネサンス建築の造形的性格と、この時代の建築家について学ぶ。

第14回：西洋建築史(6) バロック建築と北欧の近世建築

ルネサンスと同じ古代の形式を借用しながら動的な性格を表現したバロック建築の特徴を学び、ルネサンスの影響が遅れて根付いてゆく北欧の近世建築の展開を学ぶ。

第15回：西洋建築史(7) 近代建築

19世紀の大きな社会の変化に対して、建築も新しい展開を見せる。18世紀までとは異なる様々な新しい造形・技術が生み出され、現代へとつながる状況について考える。

事前・事後学習

1. 授業の項目に該当する教科書の部分の、図版・図版解説を、講義聴講の前の一読すること(予習)。
2. 講義聴講の後に、講義された内容・配布資料と共に対応する教科書・参考資料等の項目について理解を深めること(復習)。